

環境経営レポート

(2017年版 エコアクション21ガイドライン対応)



「きれいだね、きれいにしているね」
をモットーに

「環境に優しいものづくり」
を推進します



瀬戸日の出第1工場



瀬戸日の出第2工場



瀬戸日の出第3工場

【2022年度版】

対象期間 (2022年5月～2023年4月)

発行日 2023年6月24日
改訂日 2023年7月31日



株式会社 **カワサキ**

目 次

項 目	ページ
1. 組織の概要	P1～P2
2. 実施体制及び対象範囲	P3
3. 環境経営方針	P4
4. 環境経営目標	P5～P9
5. 環境経営計画	P10～P12
6. 環境経営目標に対する実績	P13～P14
7. 環境経営活動取組結果の評価と次年度の取組内容 . .	P15～P17
8. 環境関連法規制等への違反及び訴訟の有無	P18
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	P19～P20

1. 組織の概要

(1) 会社名及び代表者

株式会社 カワサキ

代表取締役 川崎 智之

(2) 所在地

本社 名古屋市昭和区福江二丁目7番23号

瀬戸日の出第1工場 瀬戸市日の出町28番地

瀬戸日の出第2工場 瀬戸市日の出町30番地

瀬戸日の出第3工場 瀬戸市日の出町19番地

(3) 会社概要

売上金(加工費ベース)633百万円(2022年度 第1工場543百万円、第3工場90百万円)

資本金 30百万円

事業年度 5月1日～4月30日

人員、規模等 (2023年5月1日現在)

	本社	瀬戸日の出第1工場	瀬戸日の出第2工場	瀬戸日の出第3工場	合計
従業員	1	50	2	8	61
パート等	0	0	0	0	0
敷地面積	—	2141.87㎡	947.56㎡	1305.17㎡	4394.6㎡

主要取引先

(株)鳴海合金製作所、アイシングループ各社、テクノエイト(株)、リンナイ(株)、

他30社以上

(4) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 品質保証部 品質保証課 参事 各務 鋼

連絡先

本社 TEL 052-881-9223 FAX 052-881-9291

瀬戸日の出第1工場 TEL 0561-86-8886 FAX 0561-86-8889

e-mail : kakumu@kawasaki-paint.co.jp

(5) 沿革

創業 1956年1月(昭和31年)

設立 1974年10月1日(昭和49年)

2010年10月(平成22年)瀬戸日の出第1工場稼動

2012年7月(平成24年)エコアクション21認証取得

2012年12月(平成24年)瀬戸市「環境に優しい事業所」認証取得

2014年6月(平成26年)瀬戸日の出第2工場新塗装ライン(粉体)稼動

2015年2月(平成27年)瀬戸日の出第2工場新(環境配慮型)前処理ライン稼動

2017年7月(平成29年)瀬戸日の出第3工場稼動(アルミ自動車部品専門工場)

2019年2月(平成31年)シリカ系コーティング開始(瀬戸日の出第3工場)

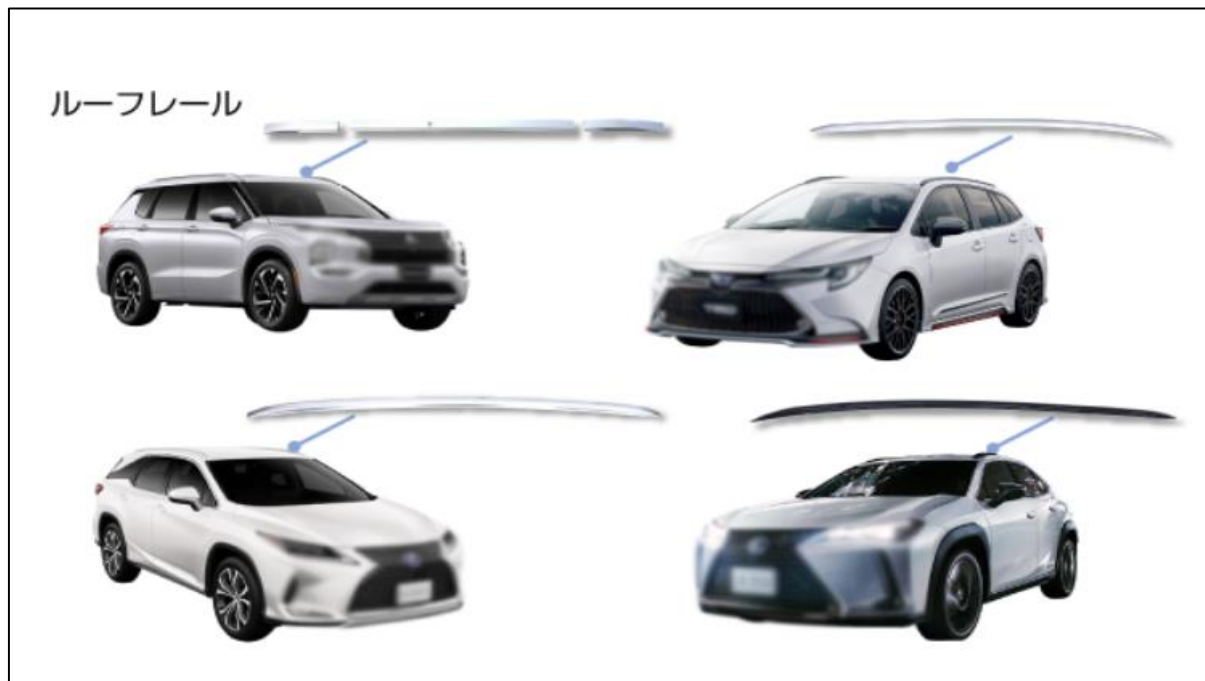
2021年2月末(令和3年)をもって瀬戸日の出第2工場の生産活動を休止

2022年5月資本金を3000万円に増資

(6) 事業内容

ガス器具部品、自動車部品、弱电部品、遊戯機等の金属塗装・プラスチック塗装

- ・カチオン電着塗装 ・静電塗装 ・アルミ素材への前処理及び電着塗装、吹付塗装
- ・各種溶剤吹付塗装 ・樹脂塗装 ・粉体塗装



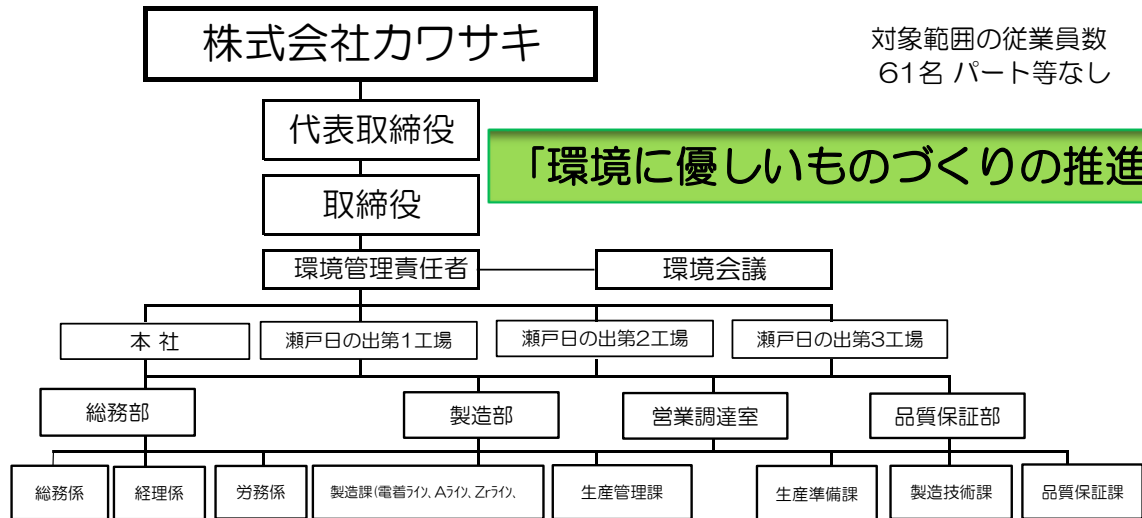
(当社の特長)

- ① カチオン電着ラインと静電塗装ラインが併設してあることにより
同一工場内での下塗りから上塗りまでの一貫工程が可能となっています。
従って、工程別に複数の業者に発注する必要がなくコスト削減、納期短縮
が実現出来ます。
- ② 新しく従来の溶剤塗装に加え「ラジコテック」塗装ラインの導入により顧客の
幅広いニーズへの対応が可能となりました。金属製品のみならず美粧、
耐久性向上、特殊機能付与等を目的とした、プラスチック素材への塗装も
行っており、「塗装のオールラウンドプレーヤー」としての生産体制を

2. 実施体制及び対象範囲

(1) 環境マネジメント組織図

(2023年 5月現在)



(2) 職務権限

代表取締役	・ 環境経営に関する統括責任
	・ 環境経営システム(EA21)の実施に必要な資源の確保と提供
	・ 環境管理責任者の任命
	・ 環境経営方針の策定、見直し・指示を全従業員に周知
	・ 環境経営目標、環境経営活動計画の承認
	・ 代表者による全体の評価と見直し・指示
	・ 環境経営活動レポートの承認
環境管理責任者	・ 環境経営システム(EA21)の構築、実施、管理、維持
	・ 環境経営システム(EA21)の実施状況及び改善の必要性の有無を代表者に報告
	・ 環境関連法規制等の遵守確認
	・ 環境経営活動レポートの作成
	・ 環境経営会議の開催
	・ 環境経営システム(EA21)に係る手順書の作成
	・ 環境経営システム(EA21)の運用、維持に係る各部門への支援
環境会議 (課長職以上)	・ 環境経営目的、環境経営目標の策定
	・ 環境管理責任者の業務を補佐し、環境経営管理活動を展開する
	・ 環境経営管理活動の展開を図る為、重要課題について対応策を検討し展開する
環境推進委員	・ 各部門における環境経営システム(EA21)の実施、運用
	・ 各部門における環境経営方針の周知と教育を推進
	・ 環境経営活動計画の実施及び状況を環境会議に報告
	・ 自部門の環境経営管理の実施、点検及び是正の指示を行う
全従業員	・ 環境経営方針の理解と環境問題への取組みの重要性を自覚
	・ 決められた手順と担当業務に適用される法規制・要求事項を遵守する

(3) 環境経営レポートの対象範囲

- ①今年度は、本社、瀬戸日の出第1工場、第2工場、第3工場を対象とし対象期間は2022年5月1日から2023年4月30日までです。(瀬戸日の出第2工場は2021年2月末をもって生産活動を休止致しました。)

(事業活動)

金属部品の溶剤塗装、カチオン電着塗装及び粉体塗装、樹脂部品の溶剤塗装

- ②次年度は2023年5月1日～2024年4月30日までを対象とし、同年6月上旬までに作成する予定です

- ③本社は環境負荷が少ないため環境目標(数値目標)は設定なし。但し節水、節電、コピー用紙削減等の環境活動は実施する

- ④第2工場は生産活動を休止したことで環境計画は適用しないが、事務所があるため光熱費関係の数値は管理して無駄な使用の削減に取組むこととした

3. 環境経営方針

株式会社 カワサキ 環境経営方針

基本理念

私たち株式会社カワサキは、事業活動における環境負荷の低減や社会に貢献出来る活動を通じて地球温暖化への対応や資源の有効利用に向けて全員で取り組み、環境に優しいものづくりの推進により地球環境との調和と保全を図ってまいります。

基本方針

- ① 環境保全に対する目標・活動計画を定め推進し、見直しを行うことにより環境経営の継続的改善を行ないます。
- ② 当社の事業活動に適用される環境に関する法的要求事項及び協定等を遵守します。
- ③ 地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量ならびに水使用量の削減、廃棄物の排出量削減及びリサイクルについて目標を定め取り組みます。
- ④ 化学物質の効率的な利用により使用量の削減に努めます。
- ⑤ 環境保全や省資源に配慮した製品の購入に心掛けます。
- ⑥ 全従業員が環境経営方針を周知し、環境に関する教育訓練を実施するとともに当社に関連する全ての人が閲覧出来る様に開示します。
- ⑦ 当社の事業活動である金属・樹脂部品への塗装を通じ、品質向上に向け取り組むとともに、環境性能の向上を目指しながら、環境に優しいものづくりの推進で環境負荷低減を実現します。

制定日 2012年1月 6日
改定日 2020年8月20日



株式会社 **カワサキ**

代表取締役 川崎 智之

4. 環境経営目標

4-1 中期環境経営目標(2022年度～2025年度)

※瀬戸日の出第1工場、第3工場とも2021年度実績を基準値として環境活動の推進を図ることとしました。

また、生産高の原単位は以前の有償支給部品費を含んだ合計金額から加工費ベースのみの生産金額とすることでより実情に近い金額で評価できる方式に変更しました

①瀬戸日の出第1工場

※2021年度(2021年5月～2022年4月)実績を基準値として設定し

下記の削減目標に取り組んで行きます

※生産高は有償支給費を除いた加工費ベースで算出

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2022年度 削減目標 1%	2023月年度 削減目標 2%	2024年度 削減目標 3%	2025月年度 削減目標 4%
二酸化炭素排出量 の削減	電力使用量	kwh/生産高(百万円)	1411	1397	1383	1369	1355
		排出量(kg-CO ₂ -換算)	322868	319639	316411	313182	309953
	都市ガス使用量	m ³ /生産高(百万円)	270	267	265	262	259
		排出量(kg-CO ₂ -換算)	306122	303061	300000	296938	293877
	ガソリン使用量	ℓ/生産高(百万円)	13.79	13.65	13.51	13.38	13.24
		排出量(kg-CO ₂ -換算)	17191	17019	16847	16675	16503
	二酸化炭素排出量合計	kg/生産高(百万円)	1203	1191	1179	1167	1155
		排出量(kg-CO ₂ -換算)	646181	639719	633257	626796	620334
水使用量の削減		m ³ /生産高(百万円)	14.63	14.48	14.34	14.19	14.04
		使用量(m ³)	7854	7775	7697	7618	7540
産業廃棄物の削減		kg/生産高(百万円)	246	244	241	239	236
		排出量(kg)	132019	130699	129379	128058	126738
化学物質使用量の削減		kg/生産高(百万円)	16.45	16.29	16.12	15.96	15.79
		使用量(kg)	8831	8743	8654	8566	8478
環境性能の向上	不良削減による稼働時間抑制	H/生産高(百万円)	14.46	14.32	14.17	14.03	13.88
	(再塗装に要する環境負荷低減)	工場稼働時間(H)	7767	7689	7612	7534	7456

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとする。環境目標の管理は「原単位表示値」を使用する
原単位生産高 537百万円(2021年度実績)

(注2) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/kwh 都市ガス 2.108kg-CO₂/m³ ガソリン 2.322kg-CO₂/ℓ

(注3) ガソリン使用量削減については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行なう

②瀬戸日の出第3工場

※2021年度(2021年5月～2022年4月)実績を基準値として設定し

下記の削減目標に取り組んで行きます

※生産高は有償支給費を除いた加工費ベースで算出

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2022年度 削減目標 1%	2023月年度 削減目標 2%	2024年度 削減目標 3%	2025月年度 削減目標 4%
二酸化炭素排出量 の削減	電力使用量	kwh/生産高(百万円)	4814	4766	4718	4670	4621
		排出量(kg-CO ₂ -換算)	217399	215225	213051	210877	208703
	都市ガス使用量	m ³ /生産高(百万円)	350	347	343	340	336
		排出量(kg-CO ₂ -換算)	78154	77372	76591	75809	75028
	二酸化炭素排出量合計	kg/生産高(百万円)	2788	2760	2732	2704	2676
		排出量(kg-CO ₂ -換算)	295553	292597	289642	286686	283731
水使用量の削減		m ³ /生産高(百万円)	23.19	22.96	22.73	22.49	22.26
		使用量(m ³)	2458	2433	2409	2384	2360
産業廃棄物の削減		kg/生産高(百万円)	605	599	593	587	581
		排出量(kg)	64112	63471	62830	62189	61548
化学物質使用量の削減		kg/生産高(百万円)	112.47	111.35	110.22	109.10	107.97
		使用量(kg)	11922	11803	11684	11564	11445
環境性能の向上	不良削減による稼働時間抑制	H/生産高(百万円)	51.16	50.65	50.14	49.63	49.11
	(再塗装に要する環境負荷低減)	工場稼働時間(H)	5423	5369	5315	5260	5206

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとする。環境目標の管理は「原単位表示値」を使用する
原単位生産高 106百万円(2021年度実績)

(注2) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/kwh 都市ガス 2.108kg-CO₂/m³

4. 環境経営目標

4-2 今年度の環境経営目標(今年度は中期環境経営目標の1年目である)

※瀬戸日の出第1工場、第3工場とも2021年度実績を基準値として環境活動の推進を図ることとしました。
また、生産高の原単位は以前の有償支給部品費を含んだ合計金額から加工費ベースのみの生産金額とすることでより実情に近い金額で評価できる方式に変更しました

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2022年度	2025年度まで
瀬戸日の出第1工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高	1411	1%削減
			(kg-CO ₂)/生産高	601	
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	270	1%削減
			(kg-CO ₂)/生産高	570	
		ガソリン使用量(※2)	ℓ/生産高	13.79	—
			(kg-CO ₂)/生産高	32	
	総排出量		(kg-CO ₂)/生産高	1203	1%削減
			絶対値(kg-CO ₂)	646181	1%削減
	水使用量の削減		m ³ /生産高	14.63	1%削減
産業廃棄物の削減		kg/生産高	246	1%削減	
化学物質使用量の削減		kg/生産高	16.45	1%削減	
環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)		H/生産高	14.46	1%削減	

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2022年度	2025年度まで
瀬戸日の出第2工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高	—	生産活動休止により環境計画は適用しない
			(kg-CO ₂)/生産高	—	
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	—	
			(kg-CO ₂)/生産高	—	
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	—	
			絶対値(kg-CO ₂)	—	
	水使用量の削減		m ³ /生産高	—	
	産業廃棄物の削減		kg/生産高	—	
環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)		H/生産高	—		

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

瀬戸日の出第1工場 基準年度 537(百万円) 加工費ベース

(注2) ガソリン使用量削減については物流体制が業務委託をとっており使用量が少量のため毎月の使用量のみ管理を行っている

(注3) 瀬戸日の出第1工場 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高
但し、生産高は有償支給部品費を除いた加工費ベースで算出する

(注4) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/ kWh(2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂/ m³ ガソリン 2.322kg-CO₂/ L

(注5) ・第2工場専用の業務用車は無くガソリンは全社での使用量を管理している

・第2工場は2021年2月末をもって生産活動を休止

・第3工場は産業廃棄物の置き場がなく第2工場の置き場に廃棄している

そのため、第2工場と第3工場の排出量を合算して管理している

4. 環境経営目標

4-2 今年度の環境経営目標

※瀬戸日の出第1工場、第3工場とも2021年度実績を基準値として環境活動の推進を図ることとしました。
また、生産高の原単位は以前の有償支給部品費を含んだ合計金額から加工費ベースのみの生産金額とすることでより実情に近い金額で評価できる方式に変更しました

環境取組項目			環境効率指標	基準値	2022年度	2025年度まで
瀬戸日の出第3工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高	4814	1%削減	基準値(2021年度実績)に対し 毎年度1%づつ上乗せして削減
			(kg-CO ₂)/生産高	2051		
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	350	1%削減	
			(kg-CO ₂)/生産高	737		
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2788	1%削減	
	絶対値(kg-CO ₂)		295553	1%削減		
	水使用量の削減		m ³ /生産高	23.19	1%削減	
	化学物質使用量の削減		kg/生産高	605	1%削減	
産業廃棄物の削減		kg/生産高	112.47	1%削減		
環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)		H/生産高	51.16	1%削減		

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

瀬戸日の出第3工場 基準年度 106(百万円)

(注2) 瀬戸日の出第3工場 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注3) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂ / kWh(2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂ / m³

(注4) ・第3工場専用の業務用車は無くガソリンは全社での使用量を管理している

・第3工場は産業廃棄物の置き場がなく第2工場の置き場に廃棄している

そのため、第2工場と第3工場の排出量を合算して管理している

・グリーン購入は全社での購入量を管理している

4. 環境経営目標

4-3 2023年度環境経営目標

※瀬戸日の出第1工場、第3工場とも2021年度実績を基準値として環境活動の推進を図ることとしました。
また、生産高の原単位は以前の有償支給部品費を含んだ合計金額から加工費ベースのみの生産金額とすることでより実情に近い金額で評価できる方式に変更しました

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2023年度	2025年度まで
瀬戸日の出第1工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高	1411	2%削減
			(kg-CO ₂)/生産高	601	
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	270	2%削減
			(kg-CO ₂)/生産高	570	
		ガソリン使用量	ℓ/生産高	13.79	—
			(kg-CO ₂)/生産高	32	
	総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	1203	2%削減	
		絶対値(kg-CO ₂)	646181	2%削減	
水使用量の削減		m ³ /生産高	14.63	2%削減	基準値(2021年度実績)に対し 毎年度1%ずつ上乗せして削減
産業廃棄物の削減		kg/生産高	246	2%削減	
化学物質使用量の削減		kg/生産高	16.45	2%削減	
環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)		H/生産高	14.46	2%削減	

環境取組項目			環境効率指標	基準値	2022年度	2025年度まで
瀬戸日の出第2工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高	—	—	生産活動休止により環境計画は適用しない
			(kg-CO ₂)/生産高	—		
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	—	—	
			(kg-CO ₂)/生産高	—		
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	—	—	
			絶対値(kg-CO ₂)	—	—	
	水使用量の削減		m ³ /生産高	—	—	
	産業廃棄物の削減		kg/生産高	—	—	
環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)		H/生産高	—	—		

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

瀬戸日の出第1工場 基準年度 537(百万円)

(注2) 瀬戸日の出第1工場 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

但し、生産高は有償支給部品費を除いた加工費ベースで算出する

(注3) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/ kWh(2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂/ m³ ガソリン 2.322kg-CO₂/ L

(注4) ・第2工場専用の業務用車は無くガソリンは全社での使用量を管理している

・第2工場は2021年2月末をもって生産活動を休止

・第3工場は産業廃棄物の置き場がなく第2工場の置き場に廃棄している

そのため、第2工場と第3工場の排出量を合算して管理している

4. 環境経営目標

4-3 2023年度環境経営目標

※瀬戸日の出第1工場、第3工場とも2021年度実績を基準値として環境活動の推進を図ることとしました。
また、生産高の原単位は以前の有償支給部品費を含んだ合計金額から加工費ベースのみの生産金額とすることでより実情に近い金額で評価できる方式に変更しました

環境取組項目			環境効率指標	基準値	2023年度	2025年度まで
瀬戸日の出第3工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高	4814	2%削減	基準値(2021年度実績)に対し 毎年度1%づつ上乗せして削減
			(kg-CO ₂)/生産高	2051		
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	350	2%削減	
			(kg-CO ₂)/生産高	737		
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2788	2%削減	
	絶対値(kg-CO ₂)		295553	2%削減		
	水使用量の削減		m ³ /生産高	23.19	2%削減	
	産業廃棄物の削減		kg/生産高	605	2%削減	
化学物質使用量の削減		kg/生産高	112.47	2%削減		
環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)		H/生産高	51.16	2%削減		

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

瀬戸日の出第3工場 基準年度 106(百万円)

(注2) 瀬戸日の出第3工場 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

但し、生産高は有償支給部品費を除いた加工費ベースで算出する

(注3) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/ kWh(2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂/ m³

(注4) ・第3工場専用の業務用車は無くガソリンは全社での使用量を管理している

・第3工場は産業廃棄物の置き場がなく第2工場の置き場に廃棄している

そのため、第2工場と第3工場の排出量を合算して管理している

5. 環境経営計画 (2022年度)

5-1 瀬戸日の出第1工場

環境経営目標を達成する為に、次の活動計画に取組みます

【目標：電気使用量を基準値の1%/年 削減 指標： kWh/生産高】

- ① 不良削減を図り不必要な稼働時間延長を防止
- ② ライン稼働に不要な設備の電源 ON/OFF確認
- ③ 事務所及び工場の不要照明の消灯
- ④ コンプレッサ等関係設備のエコ運転（能力設定を最小化）
- ⑤ 毎月の電気使用量を把握・監視
- ⑥ 冷房温度28℃設定とクールビズ運動（夏季 6月～9月に実施）
- ⑦ 暖房温度20℃設定とウオームビズ運動（冬季 12月～3月に実施）

【目標：ガス使用量を基準値の1%/年 削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② ボイラー等関係設備の起動・停止時期見直し
- ③ 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量を基準値の1%/年 削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② 前処理設備の見直し
- ③ 節水意識の高揚
- ④ 毎月の水道使用量を把握・監視

【目標：廃棄物排出量を基準値の1%/年 削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による廃棄物削減
- ② 廃棄物容量の減容化
- ③ 廃棄物の分別の徹底
- ④ 廃棄物の資源化検討（リサイクル出来る物を発掘）
- ⑤ 毎月の廃棄物排出量を把握・監視

【目標：化学物質使用量を基準値の1%/年 削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による化学物質使用量削減
- ② 作業（洗浄・調合）内容見直し
- ③ 毎月の化学物質使用量を把握・監視

品質不良削減

※二酸化炭素排出量の削減に向けた「ガソリン使用量削減」については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行ないます。
また、事業系一般廃棄物については第1工場に集積場はあるが、排出量が少量のため排出量管理を行ないます。

※環境性能の向上

【目標：不要な稼働時間を基準値の1%/年 削減 指標： H/生産高】

- ① 不良削減による稼働時間抑制（再塗装に要する環境負荷低減）

**品質不良削減を図りエネルギー使用量及び
産業廃棄物排出量の削減を推進します**

5-2瀬戸日の出第2工場

環境経営目標を達成する為に、次の活動計画に取り組めます

【目標：電気使用量管理】

- ① 毎月の電気使用量を把握・監視
- ② 冷房温度28℃設定とクールビズ運動（夏季 6月～9月に実施）
- ③ 暖房温度20℃設定とウオームビズ運動（冬季 12月～3月に実施）

【目標：ガス使用量管理】

- ① 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量管理】

- ① 節水意識の高揚
- ② 毎月の水道使用量を把握・監視

第2工場は2021年2月に生産活動を休止した
以後事務所機能のみとなったため、光熱費(電気・ガス・水道)の使用状況を
管理し無駄な使用の削減を目指すこととした



5-3瀬戸日の出第3工場

環境経営目標を達成する為に、次の活動計画に取組みます

【目標：電気使用量を基準値の1%/年 削減 指標： kWh/生産高】

- ① 不良削減を図り不必要な稼働時間延長を防止
- ② ライン稼働に不要な設備の電源 ON/OFF確認
- ③ 事務所及び工場の不要照明の消灯
- ④ コンプレッサ等関係設備のエコ運転（能力設定を最小化）
- ⑤ 毎月の電気使用量を把握・監視
- ⑥ 冷房温度28℃設定とクールビズ運動（夏季 6月～9月に実施）
- ⑦ 暖房温度20℃設定とウオームビズ運動（冬季 12月～3月に実施）

【目標：ガス使用量を基準値の1%/年 削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② ボイラー等関係設備の起動・停止時期見直し
- ③ 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量を基準値の1%/年 削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② 前処理設備の見直し
- ③ 節水意識の高揚
- ④ 毎月の水道使用量を把握・監視

【目標：廃棄物排出量を基準値の1%/年 削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による廃棄物削減
- ② 廃棄物容量の減容化
- ③ 廃棄物の分別の徹底
- ④ 廃棄物の資源化検討（リサイクル出来る物を発掘）
- ⑤ 毎月の廃棄物排出量を把握・監視

※第3工場に産業廃棄物置き場なし

【目標：化学物質使用量を基準値の1%/年 削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による化学物質使用量削減
- ② 作業（洗浄・調合）内容見直し
- ③ 毎月の化学物質使用量を把握・監視

品質不良削減

※二酸化炭素排出量の削減に向けた「ガソリン使用量削減」については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行ないます。また、事業系一般廃棄物については第1工場に集積場はあるが、排出量が少量のため排出量管理を行ないます。

※環境性能の向上

【目標：不要な稼働時間を基準値の1%/年 削減 指標： H/生産高】

- ① 不良削減による稼働時間抑制（再塗装に要する環境負荷低減）

品質不良削減を図りエネルギー使用量及び産業廃棄物排出量の削減を推進します

6. 環境経営目標に対する実績(2022年5月～2023年4月)

6-1 瀬戸日の出第1工場

環境負荷の過去実績

環境負荷	対象品目	(2011年1月～12月)	2021年度 基準値	2022年度 実績
温室効果ガス排出量 (kg-CO ₂ /生産高)	電力、都市ガス、 ガソリン	1870	1203	1007
廃棄物排出量(kg/生産高)	排出量	235	246	176
水資源(m ³ /生産高)	水道水	15.57	14.63	11.71
化学物質使用量(kg/生産高)	塗料、溶剤	33.22	16.45	4.55

注) 事業年度 5月～翌年4月

※CO₂排出係数：電力0.426kg-CO₂/kWh 都市ガス2.108kg-CO₂/m³ ガソリン2.322kg-CO₂/L

				2022年5月～2023年4月				
環境取組項目			環境効率指標	使用量等実績	目標 (1%削減)	実績	削減率 (対目標値)	評価
瀬戸日の出第1工場目標値	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高	656,717(kWh)	1,397	1,209	13.46%削減	◎
			(kg-CO ₂)/生産高		542	515		
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	118,130(m ³)	267	218	18.35%削減	◎
			(kg-CO ₂)/生産高		563	459		
		ガソリン使用量	ℓ/生産高	7,775(ℓ)	—	8,69	—	—
			(kg-CO ₂)/生産高			33		
	総排出量		(kg-CO ₂)/生産高		1,191	1,007	15.45%削減	◎
			絶対値(kg-CO ₂)	546,830 (kg-CO ₂)	639,719	546,830	14.52%削減	◎
	水使用量の削減		m ³ /生産高	6,358(m ³)	14.48	11.71	19.13%削減	◎
	産業廃棄物の削減		kg/生産高	95,861(kg)	244	176	27.87%削減	◎
化学物質使用量の削減		kg/生産高	2,472(kg)	16.29	4.55	72.07%削減	◎	
環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)		H/生産高	6,211(H)	14.32	11.44	20.11%削減	◎	

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

(注2) グリーン購入の環境効率指標：購入品目比率(%)

(注3) 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注4) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/ kWh(2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂/ m³ ガソリン 2.322kg-CO₂/ L

(※評価の基準)

◎：削減率が 10.0%以上⇒大幅に目標をクリア

○：削減率が 1.0～10.0%未満⇒目標をクリア

△：削減率が 0.0～1.0%未満⇒ほぼ目標達成

<取組結果の評価>

- ① 上記実績の通り全ての取組項目で目標を達成することが出来た
次年度より通期計画の下で2年目の経営活動を推進して行く
- ② 電力消費は電力料金の高騰を受け全社的に消費電力の削減に取組んだ。特に待機電力の削減に着目しインバーター制御の調整などにより効果が出ている
- ③ ガス消費は第1工場2F塗装ラインの稼働時間低下のため、設備稼働効率の見直しを目的に生産を第3工場へ集約したことで効率的な消費量削減が出来ている
- ④ 化学物質使用量は受注量減少と第3工場への集約化で第1工場としての効率指標が大きく改善している

6-2 瀬戸日の出第2工場

生産活動休止に伴い環境計画の適用外とする

※但し、事務所機能は継続するため光熱費関係の数値は管理して無駄な使用の削減に取組むこととする

6. 環境経営目標に対する実績(2022年5月～2023年4月)

6-3 瀬戸日の出第3工場

環境負荷の過去実績

環境負荷	対象品目	2017年度以前	2021年度 基準値	2022年度 実績
温室効果ガス排出量 (kg-CO ₂ /生産高)	電力、都市ガス、 ガソリン	(活動前)	2788	3314
廃棄物排出量(kg/生産高)	排出量	(活動前)	605	573
水資源(m ³ /生産高)	水道水	(活動前)	23.19	25.19
化学物質使用量(kg/生産高)	塗料、溶剤	(活動前)	112.47	154.84

注) 事業年度 5月～翌年4月

※CO₂排出係数：電力0.426kg-CO₂/kWh 都市ガス2.108kg-CO₂/m³ ガソリン2.322kg-CO₂/L

				2022年5月～2023年4月				
環境取組項目			環境効率指標	使用量等実績	目標 (1%削減)	実績	削減率 (対目標値)	評価
瀬戸日の出第3工場目標値	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	475,613(kWh)	4,766	5,285	10.89%増加	×
		都市ガス使用量	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	45,355(m ³)	347	504	45.24%増加	×
					730	1,062		
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高		2,760	3,314	20.07%増加	×
	絶対値(kg-CO ₂)		298,219 (kg-CO ₂)	292,597	298,219	1.92%増加	×	
	水使用量の削減		m ³ /生産高	2,267(m ³)	23	25	9.71%増加	×
	化学物質使用量の削減		kg/生産高	14,551(kg)	111	155	39.06%増加	×
	産業廃棄物の削減		kg/生産高	51,921(kg)	599	593	4.34%削減	○
環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)		H/生産高	5,896(H)	51	66	29.34%増加	×	

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

(注2) 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注3) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/kWh (2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂/m³

(注4) ・第3工場専用の業務用車は無くガソリンは全社での使用量を管理している

・第3工場は産業廃棄物の置き場がなく第2工場の置き場に廃棄している

・グリーン購入は全社での購入量を管理している

(※評価の基準)

◎：削減率が 10.0%以上⇒大幅に目標をクリア

○：削減率が 1.0～10.0%未満⇒目標をクリア

△：削減率が 0.0～1.0%未満⇒ほぼ目標達成

<取組結果の評価>

- ① 上記実績の通り産業廃棄物排出量以外の項目で目標未達に終わってしまった
- ② 今年度の目標未達の主な要因は前年度比で15.1%の売上高減少である
コロナ禍からの回復基調にある中で対象車種のモデルチェンジによる受注減少が続き
売上減少となっている。また新規立上り車種の生産も半導体不足により休止が続いたことが
大きく影響している
- ③ 電力消費は第1工場と同様に待機電力改善により消費量自体は前年度比6.8%減となっている
- ④ ガス消費は第1工場からの生産移管により稼働時間増加に伴い、焼付乾燥炉の使用による
ガス消費が大きく増加し前年度比で22.3%の増加となっている
- ⑤ 化学物質使用量は第1工場からの生産移管による塗料使用量増加で前年度比16.9%の増加
- ⑥ 産業廃棄物は塗装ブースから排出される汚泥の含水率を削減する活動の成果で前年度比
19.2%減少している

7. 環境経営活動取組結果の評価と次年度の取組内容

7-1 今年度の重点取組事項への評価と反省
【前年度に取り決めた重点取組事項への実績評価】

(※評価の基準)

◎：取組事項の効果が非常に有効

○：取組事項の効果が有効

△：取組事項の効果が不十分

X：取組事項の効果がなし

① 瀬戸日の出第1工場

取組項目	今年度の重点取組事項	評価	反省
電力・ガス使用量削減	・不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける(全社品質改革プロジェクトの推進) ・前処理投入効率化(吊り数増加及び投入タイミング見直し)による不要な稼働時間の抑制 ・社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす	◎	電力消費は待機電力削減に着目し非稼働時も自動運転している排気ファンなどのインバータ制御の数値を見直し効果が出た。ガスは生産ライン移管による集約化で削減に結びついている
水使用量の削減	・社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす ・水道検針量異常発生時の監視と対応迅速化(関係部署連携)	◎	日々の水道メーター確認による検針異常に気づくなど効果あり。日ごとの使用量把握による異常を検知できる様になった。次年度以降継続とする
産業廃棄物の削減	・梱包資材(ラップ材)のリサイクル引取により廃棄物の削減を図る ・塗装カス含水率低減活動による排出重量&処理費削減 ・廃プラ類の減容、減量化活動推進	○	塗装カス含水率低減活動は1ドラム当たり20%以上重量が削減し処理金額の削減に効果が見られた
化学物質使用量の削減	・全社品質改革プロジェクトの推進により再塗装を減少させ塗料使用量を削減する ・洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) ・1本あたり塗装必要塗料重量の把握により塗料購入量の予算化で不要塗料の購入を抑制 ・上記方式での塗料購入により不良発生時に再塗装用の塗料が不足するイメージを浸透させ発生への機器意識を持たせることで塗料使用量の抑制を意識づけさせる	○	重点取組事項のうち、1本当たり塗料使用量の把握により購入量削減に結びつき効果が見られた。体制的には第1工場2F塗装ラインの生産負荷がコロナなど外部影響により大きく減少したため、稼働設備効率化を目的とした第3工場への生産移管を実施し塗装ラインを休止した
環境性能の向上	・全社品質改革プロジェクトの推進により再塗装を減少させ稼働時間増加を抑制する(再塗装に要する環境負荷を低減) ・社内工程内かんばん運用の精度アップにより不要な在庫を削減し稼働時間削減を目指す	○	事前に翌月の生産負荷検討が出来る様になり各ライン間での生産品目の調整、人員配置見直しにより不要な稼働時間延長を抑制出来た。次年度継続とする

② 瀬戸日の出第2工場

2021年2月生産活動休止により重点取組事項は計画しない。事務所機能は継続するため光熱費関係の数値は管理して無駄な使用の削減に取り組む

経営に寄与する「環境に優しいものづくりの推進」

【Q(品質)E(環境)M(経営)が三位一体となった活動】

※塗装不良削減を最重点取組みとしムダな稼働を減らすことで環境負荷の削減に結び付ける

7-1 今年度の重点取組事項への評価と反省

【前年度に取り決めた重点取組事項への実績評価】

(※評価の基準)

- ◎ : 取組事項の効果が非常に有効
- : 取組事項の効果が有効
- △ : 取組事項の効果が不十分
- × : 取組事項の効果なし

③ 瀬戸日の出第3工場

取組項目	今年度の重点取組事項	評価	反省
電力・ガス使用量削減	- 不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける(全社品質改革プロジェクトの推進) - 新規品、変更品をライントライする時の電力・ガス使用状況監視 - 空調設備の設定・運転状態の遵守確認	△	電力消費は第1工場の水平展開で待機電力削減を行い効果が見られた。ガス消費は第1工場からの工程移管で焼付乾燥炉の稼働時間増加に伴い大きく増加している。次年度は節ガスに重点を置いた活動を進める
水使用量の削減	- 社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす - 水道検針量異常発生時の監視と対応迅速化(関係部署連携) - 社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす	○	事前の生産負荷検討により無駄な稼働をなくし水道使用量の抑制は達成出来た。製品の品質重視の観点から前処理水の交換頻度を短くして来たが、対象製品の打ち切りにより従来の交換頻度に戻したため更に水使用量の削減が進んだ
産業廃棄物の削減	- 梱包資材(ラップ材)のリサイクル引取により廃棄物の削減を図る - 塗装カス含水率低減活動による排出重量&処理費削減 - 廃プラ類の減容、減量化活動推進(使用方法の明確化と統一)	○	塗装カス含水率低減活動は1ドラム当たり20%以上重量が削減し処理金額の削減に効果が見られた
化学物質使用量の削減	- 全社品質改革プロジェクトの推進により再塗装を減少させ塗料使用量を削減する - 洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) 1本あたり塗装必要塗料重量の把握により塗料購入量の予算化で不要塗料の購入を抑制 - 上記方式での塗料購入により不良発生時に再塗装用の塗料が不足するイメージを浸透させ不良発生への機器意識を持たせることで塗料使用量の抑制を意識づけさせる	○	第1工場からの生産移管により化学物質使用量は16.9%の増加となっている。また、従来第3工場で生産を実施して品目についても不良率の増加が見られ塗装使用量の増加につながっている。次年度も不良率削減が大きな課題となる
環境性能の向上	- 全社品質改革プロジェクト推進により再塗装を減少させ稼働時間増加を抑制する。(再塗装に要する環境負荷を低減) - トライ・試作など量産外での稼働時間把握	○	事前に翌月の生産負荷検討が出来る様になり各ライン間での生産品目の調整、人員配置見直しにより不要な稼働時間延長を抑制出来た。次年度継続とする



7-2 次年度(2023年度)の活動計画

次年度は今年度の活動をベースに継続して改善を進めて行きます
下記に今回の取組結果の反省を基に次年度の重点取組事項をまとめました



① 瀬戸日の出第1工場

取組項目	次年度の重点取組事項
電力・ガス使用量削減	・ 外部省エネ診断受診による電力・ガス消費量削減 ・ 前処理投入効率化(吊り数増加及び投入タイミング見直し)による不要な稼働時間の抑制 ・ 社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす
水使用量の削減	・ 社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす ・ 水道検針量異常発生時の監視と対応迅速化(関係部署連携)
産業廃棄物の削減	・ 梱包資材(ラップ材)のリサイクル引取により廃棄物の削減を図る ・ 前処理汚泥の含水率削減活動による排出重量削減と処理費用削減 ・ 廃ブラ類の減容、減量化活動推進
化学物質使用量の削減	・ 全社品質改革プロジェクトの推進により再塗装を減少させ塗料使用量を削減する ・ 洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) ・ 新規立上り車種の不良率早期安定化による塗料使用量削減
環境性能の向上	・ 全社品質改革プロジェクトの推進により再塗装を減少させ稼働時間増加を抑制する(再塗装に要する環境負荷を低減) ・ 社内工程内かんばん運用の精度アップにより不要在庫を削減し稼働時間削減を目指す

② 瀬戸日の出第2工場 生産活動休止により重点取組事項は計画しない

③ 瀬戸日の出第3工場

取組項目	次年度の重点取組事項
電力・ガス使用量削減	・ 不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける【継続】(全社品質改革プロジェクトの推進) ・ 新規品、変更品をライントライする時の電力・ガス使用状況監視 ・ 外部省エネ診断受診による電力・ガス消費量削減
水使用量の削減	・ 社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす ・ 水道検針量異常発生時の監視と対応迅速化(関係部署連携)
産業廃棄物の削減	・ 梱包資材(ラップ材)のリサイクル引取により廃棄物の削減を図る ・ 塗装カス含水率低減活動による排出重量&処理費削減(第2STEP) ・ 廃ブラ類の減容、減量化活動推進
化学物質使用量の削減	・ 全社品質改革プロジェクトの推進により再塗装を減少させ塗料使用量を削減する ・ 洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) ・ 1本あたり塗装必要塗料重量の把握により塗料購入量の予算化で不要塗料の購入を抑制 ・ 塗装ロボット塗料吹付け装置の更新による塗料使用量削減
環境性能の向上	・ 全社品質改革プロジェクト推進により再塗装を減少させ稼働時間増加を抑制する。(再塗装に要する環境負荷を低減) ・ トライ・試作など量産外での稼働時間把握

8. 環境関連法規制等への違反及び訴訟の有無

(1) 関連法規制等への対応

各環境関連法規制については「遵守確認チェック表」を作成し法令等の改正及び遵守の確認を行っています。遵守状況に不具合があった場合は「是正処置・予防処置報告書」を発行し、処置の実施及び確認をする仕組みを採っています。

法律条例等の名称	当社の対応状況	第1工場	第2工場	第3工場
水質汚濁防止法	塗料庫(指定施設)での事故(設備破損等による地下への汚染)発生時に届出義務あり	○	○	○
騒音規制法(愛知県条例)	コンプレッサーの能力が該当する為、関係当局に届出	○	○	○
振動規制法(愛知県条例)	コンプレッサーの能力が該当する為、関係当局に届出	○	○	○
廃棄物処理法	産業廃棄物の適切な処理保管、マニフェストによる管理を行なう	○	○	/
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出(1回/年)及び蛍光灯等の水銀廃棄物に関する適切な処理	○	○	
下水道法(市条例)	瀬戸市下水道条例に基づき排水の処理管理を行ない定期的に報告を行なう	○	/	/
特定化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)(愛知県条例を含む)	化学物質使用量(第1種指定・特定第1種指定)の把握及び関係当局への報告(1回/年)	○		
毒物劇物取締法	指定物の使用状況の把握及び貯蔵状況の確認	○	/	○
消防法(瀬戸市火災予防条例)	法に基づき乾燥設備・変電設備・少量危険物貯蔵庫(塗料庫)の点検・報告・届出を行なう	○		○
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則に定める基準を順守し検査を行ない記録(健康診断・作業環境測定等)を管理及び化学物質リスクアセスメントの実施	○	/	ロボット塗装により非該当
	作業環境測定 健康診断 リスクアセスメント	○		
フロン排出抑制法	法令点検(専門家による3年毎点検)及び簡易定期点検(自社3ヵ月毎点検)の実施と記録の保持	○	○	○
環境配慮促進法	事業活動に関する環境情報を外部に開示する	○	○	○
瀬戸市環境の保全及び創造に関する協定	環境保全計画書に締結した内容に基づき環境法規制を遵守する	○	○	○

遵守確認については環境管理責任者が実施致しました。本確認以降は必要に応じ改正内容の有無確認を行っており法規制及び条例等への違反事項はありません。

(2) 違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に関する環境関連法規制及び対応状況は上記関係法規を含め全て遵守しています。
 瀬戸日の出第1工場は設立(2010年10月)以降、関係各機関から違反、告訴等はありませんでした。
 第2工場は2016年3月に近隣より臭気に関する苦情が寄せられましたが、早期に対策を行ないこれ以降苦情はありません。
 第3工場は2017年の試験操業以降、関係各機関からの違反、告訴等ありません。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

(1) 適応性、妥当性、有効性の確認

2022年5月から2023年4月までの当社(瀬戸日の出第1、第2、第3工場)の環境活動の結果を管理責任者より報告を受けました。当社は瀬戸日の出全工場でEA21認証登録及び瀬戸市の「環境に優しい事業所」認定を受けて以降、社員の環境意識の高まりにより活動が浸透して参りました。

尚、第2工場は2021年2月以降生産活動の休止を継続しております。

<瀬戸日の出第1工場>

- ①顧客からの受注動向に対して事前に全ラインを対象とした生産負荷検討を行なう仕組みが軌道に乗り各ラインの稼働予測、人員配置確認、生産品目の振り分け等を行なう稼働最適化の体制が強化された。不要な生産の排除、無駄な設備稼働に伴うエネルギー削減を継続する
- ②電力消費削減については待機電力削減で一応の成果を得られた。今後は省エネ診断の受審を切口として改善活動を進めてほしい
- ③ガス消費削減については、塗装ラインを第3工場に集約化したことにより、焼付乾燥炉の設備稼働エネルギー削減に繋がり、第1工場全体が効率的な消費に向かっている
- ④水道使用量については日々の実績チェックにより異常を検知できる様になったので、体制を維持し異常時への早期対応ができる仕組みを構築し改善していく

<瀬戸日の出第2工場>

- ①生産活動休止に伴い環境計画の適用外とするが、事務所機能は継続しているため光熱費関係の数値は管理して無駄な使用の削減に取り組む
- ②第2工場の活用方法については現在検討中であり客先のニーズに柔軟に対応できる体制構築を進めて行く。

<瀬戸日の出第3工場>

- ①コロナ禍の長期化と塗料を始めとする材料費の高騰で収益回復が進んでいない状況である。そうした中で従来より第3工場で生産してきた品目で不良率後退が見られ、再塗装の必要から稼働時間延長、塗料使用量増加となり、特に化学物資使用量に係る効率指標が大きく後退している。今後は品質不良率の改善を重点取り組みする
- ②電力削減は第1工場の水平展開で待機電力削減を行い効果が見られた。今後は省エネ削減を受診し結果を切口に改善を進めて行く

<今後の全社展開について>

主要顧客である自動車部品メーカーがコロナ禍からの回復基調にある中で電力・ガスなどのエネルギーコスト塗料を始めとする材料費の高騰により収益性の回復が進んでいない状況である。当社は金属製品への塗装業を主体としているため、品質不良削減は最重要課題であり、改善による再塗装など本来不要な稼働の削減で環境負荷削減を進めて行く

(2) 代表者による指示事項

変更の必要性の有無・指示事項
【環境経営方針について】 ・2022年5月～2023年4月の活動結果を基に達成状況を確認の上、次年度の重点活動事項を明確にすること ・2022年度の重点取組事項への評価と反省を行ない活動を見直すこと 変更の必要性： ☒有 ☐無
【目標・環境経営活動計画について】 ・瀬戸日の出第1工場 省エネ診断を受診しその結果を切口として改善活動を進める。電着ラインは1治具あたりの掛け数向上など生産性改善と不要な稼働を行わない生産管理面での向上を主体に改善活動を推進する ・瀬戸日の出第2工場 生産活動を休止したことで環境計画は適用しないが、事務所、検査場があるため光熱費関係の数値は管理して無駄な使用の削減に取り組むこと ・瀬戸日の出第3工場 品質不良率後退への対応を最優先で実施する。これによる本来不要な稼働時間の削減、塗料使用削減により環境各効率指標の立て直しを第1に進める 変更の必要性： ☒有 ☐無
【環境経営システムの各要素について】 ・「会社経営に寄与する活動としてほしい」 会社方針として「品質第一」の意識高揚を図る。「品質は生産より上位である」ことを理解し品質不良削減が会社としての最重要の環境負荷低減への方策であることを全社で認識し推進する行動を始める前に「準備、用意、支度」してこそ有益な行動と成り得る。物事を行なう前にあらかじめ必要なものを揃え、実際に行動し、行動内容を精査して問題点や改良すべき点を洗い出していく基本内容は前年度方針を継続し活動を強化することとする 変更の必要性： ☒有 ☐無

